写真道展審査会員

齋藤　俊道さんを偲んで

平成二十二年七月三日旭川市道北病院にて肺がんにより逝去。享年七十三歳謹んでご冥福をお祈りいたします。齊藤氏は昭和十三年網走管内美幌町で生を受け、奥さんの千代子さんと昭和三十九年に結婚されたのを契機に写真を始めたそうです。

昭和四十三年から平成元年、写真道展に十六回入選、地域の発展に貢献されたことが認められ、昭和五十八年上川町文化奨励賞、平成十二年上川町文化賞、十七年北海道写真協会「功労賞」を受賞。

氏は上川町文化協会三十五周年記念号に現在の心境を書いております。「北風」に取組んでいるが、年だけは一人前に過ぎてゆくが、なかなか満足には遠く、是非公に、前にさらしたいものと思っている。人間は年と共に精神、肉体が衰え始め無機質な人間として一生終わるか、それとも常日頃切磋琢磨を心がけ輝ける人生を過ごすことが出来るとすればこの上はないでしょうか、またそうありたいと思っていると掲載されております。作品の拝見を楽しみにしていた矢先に、残念でなりません。地域文化発展に捧げた功績は誠に大きいものがあります。心よりお礼と感謝を申し上げ、ご冥福をお祈り致します。

上川支部長　藤坂　孝一

私の抱負―新審査会員

高橋　正（芦別）

この度、歴史と伝統ある写真道展審査会員に推挙頂き光栄に存じますと共に身の引き締まる思いで一杯でございます。胸のトキメク写体を追って数十年これからは新分野のデジタルの研鑽と自らの創作に一層努め、道写協発展のため微力ではありますが、尽力して参ります。今後とも宜しくお願いいたします。

浪岡　和雄（室蘭）

この度、写真道展審査会員ご推挙頂き大変嬉しく思っています。諸先生及び道写協室蘭支部の皆様には深く感謝申しあげます。写真を始めていろいろな感動にめぐり合いました。出会いと発見そしてひらめき、表現することの喜び「写真は楽しく、ゆっくりと」をモットーに、これからも作品作りに励みたいと思います。今後ともご指導宜しくお願いいたします。

佐藤寿美子（札幌）

はからずも写真道展審査会員にご推挙頂きました。身に余る光栄です。同時に今まで過ごしてきた数々の撮影とのかかわりを懐かしく振り返っております。今なお写真への愛着は衰えることなく、その表現力の向上に努めております。同好の皆様、今後もよろしくお願い致します。

大平　博雄（苫小牧）

写真道展審査会員に推薦頂き大変嬉しく思っております。日頃から諸先輩のご指導のおかげと感謝の気持ちでいっぱいです。名に恥じぬよう精進し道写協発展のため努力いたします。今後ともご指導よろしく願いいたします。

私の一枚＝随　想

〈シリーズ―55〉

審査会員

田嶋　英夫

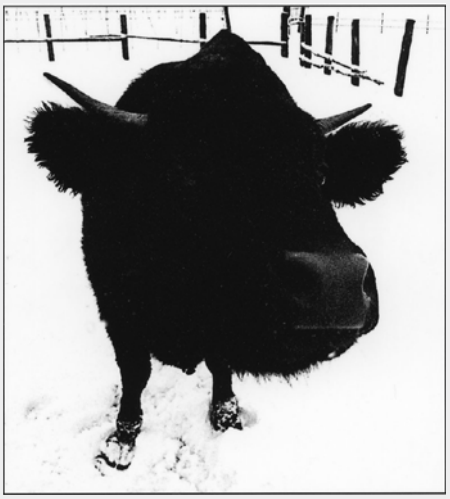
被写体との出会い

撮影経験が長くなると被写体を見る目に新鮮さが薄れると共に次第に迷いも生じて来るものである。私はそんな時には新しいレンズを購入することで気持ちの切り替えにしています。

ある時、超広角の二十ミリレンズを手にしました。日高路はサラブレットの生産でも有名ですが、近年は新たな産業として「黒毛和牛」が導入されています。初めて手にした広角レンズから飛び込む被写体は新鮮で心躍るものがありました。白い雪原の中にたたずむ黒い牛には、モノクロならではの新たな撮影意欲をくすぐるものがあり、盛んにシャッターを押したのです。広角レンズは見慣れた風景を新たな表現の世界に導いてくれます。

特にクローズアップではデフォルメされることで、表現方法に大きな変化と新たな可能性への期待をもたらしました。

近年、道展に応募される作品はカラー作品が大勢を占めますが、カラー全盛の時だからこそモノクロの良さを見直して挑戦して欲しいものです。モノクロには撮影者の作品表現における「こだわり」を見ることができます。

デジタルではカラーからモノクロに変換することも容易ですから、ぜひとも作品化して頂きたいものです。

掲載の作品はカメラ誌「フォトコン」（九三年五月号）のモノクロ月例に入賞した作品です。